

開講科目名 Course	租税法研究演習 1 年（関岡先生） / Seminar on Tax Law
時間割コード Course Code	18011
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	土 / Sat 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	関岡 誠一
科目区分 Course Group	研究演習科目
教室 Classroom	4 5 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関岡 誠一（法学部）
授業の目標	広い視野に立った幅広い基本的知識と租税法に関する専門知識を基礎として、高度の専門性が求められる職業を適切に行い得る能力を有していることが実証される研究成果（修士論文）へとつなげていくことを目標とする。
授業の概要	受講者各自が選定した研究テーマに基づき、判例研究や小論文作成という課題を与え、全員による質疑や討議を通じて研究を深める。 研究テーマに関しては、綿密な調査を行ったうえで、学説、判例、実務等の諸観点から幅広く検討を加え、先行研究の到達点が的確に把握・分析されるよう指導する。また、テーマの研究に際しては、主題に関する論点（リサーチ・クエスチョン）が適切に設定されるようディスカッションを重ねる。
評価方法	判例研究や小論文の完成度や授業への貢献度等を総合的に勘案して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	前期は基礎文献の読み込みと判例研究を中心に進める。 後期は小論文の完成を目指す。
テキスト	研究テーマに応じたもの。
参考書	研究テーマに応じたもの。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	修士論文の作成を目標とした演習であることから、特に実務経験を活かすことはない。
質問への対応方法	適宜。
フィードバックの方法	適宜。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	指示された課題を確実に成し遂げるためには、1日に少なくとも2時間の学習を要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	

